

「先進医療」のアクセシビリティと民間保険の役割

三井住友海上火災保険株式会社

浅沼 陽介

1. はじめに

本発表は、「先進医療」の普及に向けた課題と民間保険による「先進医療」の普及に果たす役割を確認するものである。

「先進医療」¹とは、国民の安全性を確保し、患者負担の増大を防止するといった観点も踏まえつつ、国民の選択肢を拡げ、利便性を向上するという観点から、将来的な保険導入のための評価を行うものとして、未だ保険診療の対象に至らない先進的な医療技術等と保険診療との併用を認めることとしたものである。

2. 先進医療と民間保険

(1) 先進医療の現状と課題

先進医療は、新たな医療技術の将来的な保険導入のための評価を行うものとして定められたものであり、新たに先進医療の対象となる技術もあれば、保険診療として承認や承認取消されることで先進医療の対象外となる技術もある。したがって、これまで技術数は大きく変動することはなかった。

一方、先進医療の実施医療機関数や患者数は、直近数年で医療機関数・患者数の多い技術の対象外化や追加があり、大きく変動したものの、それまでは増加傾向にあったことから、承認技術は一定程度普及しているものと考えられる。

しかしながら、先進医療の普及・利用拡大には、医療機関・患者双方からの課題がある。医療機関における先進医療提供の主な課題は、先進医療を実施するためのプロトコル作成など、実施体制の負担が大きいこと、専門医師の不足などが挙げられる。患者側における先進医療利用の主な課題は、医療技術によっては高額となり得る治療費の自己負担や、提供可能な医療機関数が少ないことに起因する地域格差などがある。

また、先進医療の実施にあたっては、患者の健康状態などの詳細な情報が必要となることから、通常の保険診療に比べて医療機関と患者のコミュニケーションがより重要である。適切なコミュニケーションには、患者側も先進医療に対する基本的な知識を有していることが有用であるが、先進医療の存在が一般に知られているとは言い難い状況である。

¹ 「先進医療」については、厚生労働省HP「先進医療の概要について」参照

（２）「先進医療」に対応した民間保険商品

先進医療の技術料は、医療技術によっては数百万円など高額となることもあることから、先進医療に関する費用を補償する民間保険商品は数多く販売されている。

また、技術料以外の治療を受けるための費用として、交通費や宿泊費も想定されるが、これも実費または定額で補償対象となる商品が一般的である。

3. 「先進医療」の普及に向けた民間保険の役割

（１）先進医療利用に係る費用

上述のとおり、民間保険商品は先進医療に関する技術料や交通費、宿泊費などの経済的負担をサポートすることで、高額となり得る治療費の自己負担や、提供可能な医療機関数が少ないことに起因する地域格差といった、患者にとっての先進医療利用に関する課題の解決の一助となっている。

なお、先進医療に関する補償は、入院補償などの基本補償に対するオプションとして用意されていることが多く、その保険料は月額数十円程度からと比較的安価であることが一般的である。

（２）先進医療の周知

先進医療は利用頻度が少なく、一般にあまり認知されていない一方で、保険事故の頻度が少なく、支払保険金単価が高額であることから、保険で備えるのに向いており、各民間保険会社も積極的な販売を行っている。民間保険会社は、先進医療の基本的知識の周知や補償の必要性の訴求により保険募集を行うことで、先進医療の一般への周知にも貢献している。

患者側への先進医療に関する基本的な知識の普及は、前述の医療機関と患者のコミュニケーションを促す一助となる。

4. 考察・今後の課題

先進医療費用補償の被保険者集団における事故発生率（先進医療の利用頻度）は、一般統計から算出したものに比べて高い傾向にある。逆選択性や母集団の違いなどの要因があるため、因果関係を断定することはできないが、先進医療費用補償の提供による経済的負担のサポートや先進医療の周知により、先進医療の普及に一定の役割を果たしていると推察している。

以 上